

# 進化 ← 長崎!!

「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」に向けて「進化」する長崎。このコーナーでは、中・長期的な長崎市の取り組みを中心に、その「動き」をお伝えします。

特集

市政

長崎市民

ご意見・プレゼント

生活情報

健康

子育て

福祉

税

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

2017年、出島が再び橋でつながります

## 出島表門橋架橋プロジェクト

出島では、商館員の住まいだった筆者蘭人部屋など6棟の復元建造物が今年10月に完成します。それに続き、来年には、出島と対岸の江戸町とを結ぶ「出島表門橋」が完成する予定です。

### 出島表門橋、架橋の意味

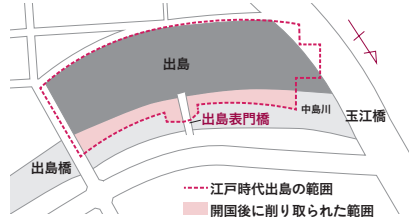
17世紀に造られた扇形の人工の島「出島」は、対岸の江戸町と、当初は木橋で結ばれ、後に長さ4・5<sup>メートル</sup>ほどの石橋「出島橋」に架けかえられて、幕末・開国を迎えました。

明治時代になると、中島川の変流工事により、扇形の内側の部分が削り取られて川幅が約30<sup>メートル</sup>

となり、石橋はなくなりまし  
た。また、島の周囲は埋め立  
てられ、陸続きとなりました。

昔の人々と同じように橋を  
渡って出島に入ることができ  
たら、海に浮かんでいた江戸  
時代の出島の雰囲気を感じら  
れるのではないのでしょうか？

そこで、市では、当時橋が  
あった場所に、新たな橋「出  
島表門橋」を架ける工事を進  
めています。



### なぜ、復元ではないのか？

「出島に橋を架けるなら、昔と同じように石橋で復元するの？」と思われるかたもいらっしゃるかもしれませんが。

実は、現在の川幅は大幅に拡幅され約30<sup>メートル</sup>あるため、江戸時代と同じような約4・5<sup>メートル</sup>の石橋を架けること（旧出島橋の復元）はできません。そこで、現代の工法による新しい橋・出島表門橋を架け、出島への入り方（往時の体験）を復元することとしました。

出島への架橋にあたっては、  
①国指定史跡である出島側に橋の土台を立てない（遺構を保護する）

②旧出島橋の復元と混同されない現代の橋とする

③防災や景観に配慮して河川内に柱を立てないという3つの点を大切にしました。

### 長崎、出島にしかない橋

これらの点に配慮して架けられる出島表門橋は、長崎・出島にしかない新しい構造の橋です。

出島の遺構を保護するため、原則として江戸町側のみで橋の重みを支え、出島側には重さがかからないシーソーのような特殊な橋となります。また、高い柱などがなく、出島の景観を損なわない形としています。あくまでも、主役である出島を引き立てる橋なのです。





出島表門橋イメージ図

## 出島表門橋の架橋で変わります

### ①「出島への入り方」が変わる

出島表門橋が架かることで、出島へのメインの出入口が表門側（北側）に変わり、かつてと同じ江戸町に面した正面から橋を渡って出島へ出入りできるようになります。

### ②「出島周辺の使い方」が変わる

出島表門橋とともに中島川公園（出島対岸部分）が整備されることで、出島を含めた周辺の利用が大きく変わります。

これまでとは違う出島と公園のエリアの使い方（日常／イベント時）について、市民の皆さんとともに話し合っていきたいと思っています。



出島対岸部分の使い方を考えるワークショップ

### ③「まち」が変わる

橋が架かり、対岸の公園も整備されることで、港や水辺の森公園などからまちなかへの人の流れが大きく変わります。人の流れが変われば、まちも変わっていきます。

これらの変化を、「出島」そして「世界都市長崎」の魅力アップに着実につなげていきたいと思っています。

出島の取り組みについては、これからも広報ながさきなどで順次お知らせします。出島と長崎のまちのこれからについて、皆さんも一緒に考えて見ませんか？